

II 基本構想

1. 基本理念

これまで飯豊町では「住民主体のまちづくり」をすべてのまちづくりにおける基本理念として、計画づくりやその事業化に取り組んできました。

その間、昭和、平成そして令和と時代の移り変わりの中で、世界的な環境の変化や社会情勢の変革により私たちの生活環境が大きく変わりつつあります。

地球温暖化が原因と思われる異常気象による災害、少子高齢化による人口減少、基幹的産業である農林業の後継者や担い手不足、豪雪地帯での厳しい冬の生活、さらに、本町のような農山村地域でさえも人と人との関わりが薄れ、地域コミュニティの維持や地域の存続さえも危ぶまれている状況です。

私たちの飯豊町には、先人たちが築き、長い年月にわたり守り続けた散居集落や霊峰飯豊山、清流置賜白川、かつてイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが“東洋のアルカディア”と称賛した置賜の田園風景や農山村文化、豊かな自然の恵みを受けながら「自然への畏敬の念や感謝する気持ち」を形にした草木塔があります。そして、人々が支え合い生きていく「相手を想う心」を先人たちから受け継いできた独自の精神が息づき、長年住民主体のまちづくりを行ってきた自負があります。

飯豊町で暮らす人々は、つつましく、親しみがあふれ、忍耐強く、何事をするにも意欲に富んでおり、ここに生きる人そのものも財産です。

これらを次世代に引き継ぎ、未来へとつないでいくことが、今を生きる私たちに託された使命です。

私たちは、当たり前前の日常生活の中で、不便さや問題ばかりが目につき、故郷の素晴らしさを忘れてしまっていないでしょうか。

長年、住民主体のまちづくりを行ってきた飯豊町には、人々をあたたく迎え入れる土台があり、誰もが輝き活動できるステージがあります。この地に生まれ、この地で生活することの素晴らしさ、日々何気なく目にする田園や里山、街並みの風景の価値の本質を再認識し、飯豊で幸せになるためには何が必要か、みんなで考える10年間にしたいと考えています。

“やっぱり、飯豊で幸せになる”

持続可能なまちを実現するためには、生涯にわたって飯豊町で暮らし続けていただくことが重要です。

10年後、飯豊に住んでいて良かった、町を出ていった人が飯豊に戻って生活をしたい、都会で生活している人が飯豊で生活してみたい、やっぱり、飯豊で幸せになる。こんな声が聞こえてくるまちを、次世代を担う子どもたちからこれまでの飯豊町を築いてきたお年寄りまで、みんなが笑顔で暮らし続けられる持続可能なまちを目指します。

2. 基本目標

(1) 飯豊町の将来像(私たちが目指す10年後の飯豊町の姿)

“田園の息吹が暮らしを豊かにするまち”

“田園の息吹”とは、本町の自然環境や美しい田園景観、農山村の伝統文化、そこに生きる人などを表現しているものです。また、町民、団体、企業、行政と町に関わる全ての人たちとともに新しいチャレンジにより、新たな田園の息吹を起こします。

【目指すまちの姿】

- ・町民一人ひとりが生き生きと安心して暮らし、経済的な豊かさだけでなく、ゆとりや潤いといった心の豊かさが実感できるまちを目指します。
- ・飯豊町の宝である豊かな自然・美しい景観と共生しながら、この資源を守り、次世代に引き継ぐことを目指します。
- ・地域の個性や特徴を生かした地域づくりを大切に、地域が自ら考え、多様な主体と連携し、自ら実践する町を目指します。
- ・町民の誰もが暮らし続けたいと思う、笑顔あふれる町を目指します。



(2) 計画の基本目標

社会、経済、環境の三側面から、計画の基本目標を次のとおり定めます。

- (社会) 人々の活力が地域を支える、あたたかいまちをつくろう
- (経済) 明日をひらく産業を築き、にぎわいのあるまちをつくろう
- (環境) 災害に強く環境にやさしい、地域循環型のまちをつくろう

3. 施策の大綱

「人をはぐくむ種」「世代をつなぐ種」「縁をつむぐ種」「郷土をたがやす種」「可能性をひらく種」の“5つの種”をまき、失ったら二度と取り戻せない農山村の景観と文化を守り、先人から受け継いだ世襲財産を継承し、次世代の若者たちが働き暮らしていくこと、日本で最も美しい村としての自立を目指した取り組みを行っていきます。

今後10年は、これまでまいてきた“5つの種”が芽吹き、しっかりとした茎を育て、立派な花を咲かせられるよう、5つの施策大綱を掲げ施策の展開を図ります。

(1) 人をはぐくむまち

まちづくりの原点である「住民主体のまちづくり」「手づくりのまち いいで」を積極的に推進し、性別や世代を超えて住民一人ひとりが輝き、あらゆる場面で生き生きと活躍できる機会を創出します。

また、次世代を担う子どもたちの教育環境を充実させるとともに、充実した生涯を送るための学習機会の創出や本町の田園景観や自然環境を生かした芸術文化活動を推進します。厳しい自然と闘いながらも共存してきた、したたかでしなやかな生き方、「雪の民の生きる文化」をより深化させた飯豊の芸術文化を発信する人材を育みます。

(2) 世代をつなぐまち

誰もが安心して子どもを生み育て、飯豊町に住み続けられるよう、充実した子育て支援や高齢者・障がい者に優しいまちづくりを推進します。

また、心身ともに健康な生活ができるよう、健康づくり活動を積極的に推進するとともに、健康診査や疾病予防対策、地域医療体制の充実により健康寿命を延ばし、生涯にわたり健康で元気な暮らしができるまちを目指します。

(3) 縁をつむぐまち

人と人との繋がりを大切にし、町内観光資源の利活用により国内外からの観光や交流を促進するとともに、民間企業や教育機関などの研修等の受け入れを積極的に行い、関係人口の創出を図ります。

多様なライフスタイルの実現に向け、移住定住の促進や新たな暮らし方、農のある暮らしの普及など、飯豊での暮らしを積極的に発信していきます。

また、先人から受け継いできた美しい田園景観や自然環境、農山村文化などを適切に保全・活用し、次世代へ引き継いでいきます。

(4) 郷土をたがやすまち

生活基盤である道路網や情報通信基盤の整備及び活用技術の普及、公共交通の確保、安全で安心な水の提供などの環境づくりを行うとともに、消防・防災・防犯体制の充実を図り、災害に強いまちづくりを推進します。

また、地域資源を生かした再生可能エネルギーの利活用やエネルギーの地産地消、4R運動を積極的に推進し、環境に優しい循環型社会の実現を目指すとともに、気候変動の要因となる二酸化炭素排出量実質ゼロのまちを目指します。

(5)可能性をひらくまち

基幹的産業である農林業の活性化に取り組み、地域資源を活用したブランド化や地産地消を推進します。

また、電池バレー構想の発展や農村計画研究所の再興など、小さな農山村からの新たな挑戦を継続するとともに、商工業の強化により、買い物環境を整備するなど、地域に雇用を生み出す仕組みを創出して、地域のにぎわいを再現します。

多様な主体との連携を強化し、町民のニーズに耳を傾けながら、町民の視点に立った持続可能な行財政運営を目指します。

4. SDGsのまちづくり

国際的テーマであるSDGsの基本的な理念である「誰一人取り残さない社会の実現」は、「住民主体のまちづくり」をまちづくりの原点としている本町が目指すべき姿であり、第5次飯豊町総合計画の策定にあたっては、SDGsのゴールをより意識して策定しています。

今後も町のすべての事業について、多様な主体と連携しながら、地球上で生きる者の責任として常にSDGsを意識した持続可能なまちづくりを目指します。



<SDGsとは>

SDGsは、2015年9月に国連サミットで採択された、17のグローバル目標と169のターゲット（達成基準）からなる、2030年までの持続可能な開発目標です。SDGsの達成に向けた優れた取り組みを行う自治体を「SDGs未来都市」として政府が選定し、支援を行っています。

本町は、2018年（平成30年）に「SDGs未来都市」に選定されました。